

市長が防衛大臣と面会

～基地整備における住民の不安解消を防衛大臣へ要望～

去る2月3日（木）に八板俊輔市長が防衛省を訪問し、岸信夫防衛大臣に対し、「馬毛島への自衛隊基地整備に関する住民の不安解消を求める要望書」を手渡しました。

この面会で市長は、地元住民の馬毛島への基地整備に係る判断材料は十分ではないとしたうえで、馬毛島関連予算の閣議決定や日米安全保障協議委員会（2プラス2）の共同発表により、馬毛島への基地整備が決定した旨、防衛省から説明を受けたことを踏まえ、この問題が新たな局面に至ったとの考えを示しました。

また、1月17日（月）から25日（火）まで開催した各種団体等からの意見聴取の結果を報告し、馬毛島への施設整備に関し、地元住民の安心安全への不安解消など、国と地元住民の考えを整合させるため、国と市との協議の場の設置及び再編交付金等の交付、隊員の居住等について要望しました。

これに対し大臣は、住民の不安や懸念について、協議の場を通じて解消されるよう努力し、再編交付金等についても最大限配慮するよう検討するとし、今後、市長には住民と国との橋渡しをお願いしたい旨述べました。

なお、この面会には、地元選出国會議員 森山ひろし衆議院議員が同席しました。

～県知事との面会について～

市長は、2月4日（金）に、塩田康一鹿児島県知事に面会を求め、岸防衛大臣との面会等について説明しました。

冒頭、知事は、馬毛島への施設整備について、地元への十分な説明がなされないままに施設整備が決定されたことに触れ、環境影響評価（環境アセスメント）の手続き等により、国は住民の判断材料を示すべきと述べました。加えて、1月下旬以降の馬毛島に係る入札公告についても、環境影響評価の手続きを経た後に行うべきとの見解を示されました。

これに対し市長は、昨年末から年始にかけての国の性急な動きに対し住民が困惑していることや、先月開催した各種団体等からの意見聴取の概要等を説明し、今後も引き続き、県と情報共有していくことを述べました。

市民のみなさまへ

候補地から整備決定となり、新たな局面に入りました。

市民の皆様の期待や不安がよりいっそう現実味を帯びたものとなったと思います。

この市民の不安や懸念に、国がどう具体的に対処していくつもりなのか。

また、期待の声にどう的確に応えていくつもりなのか。

現実的な対応について、国と本市で協議の場を設け、整理・対応してまいります。

市民のみなさまの安心・安全や適切な環境が担保されるよう引き続き努力してまいります。

国との協議の状況や、国から示される環境への影響等を踏まえ、今後、一定の考えを示してまいります。